



低山ハイキングコースを

ふじやま 富士山にハイキングコースを

中学生の自転車通学の安全を

ルートの変更を含め様々な角度から研究します

Q 「おがわ学」は県立小川高校との結びつきを感じるが。

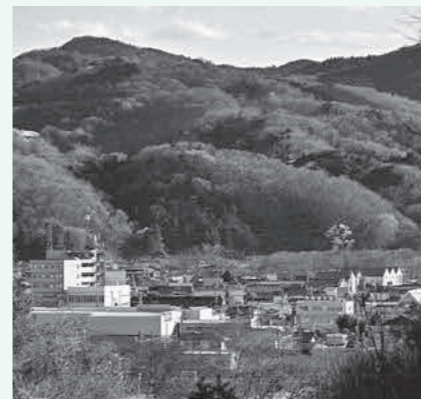
A 学校教育課長 フォーラムを小中高の連携プロジェクトとして実施しました。町民の皆さんの協力を得て「知る」学び「活かす」の体験学習を展開しました。

Q 高校裏の「富士山」に登ると眺めることができる南北に広がる景色は素晴らしいが。

A 健康福祉課長 眼下に見える高校をたどり、日光を浴びながらの山歩きは、睡眠の質向上など心身のリフレッシュに役立ち、適度な運動にもなります。

Q この周辺には、地層や鉱物の露出が見られ、地学部のフィールドワーク、また松尾芭蕉の句碑があるなど学びのコースだが。

A 生涯学習課長 生涯学習の一環として、散策しながら説明を聞く自然観察会を実施する際は、この地域を候補地の一つとして提案したいと考えます。



富士山方面から見降ろす中心市街地

Q 町民が家族と出かける日常のハイキングコースとしては。

A にぎわい創出課長 3密を避け、効率のよい有酸素運動として、身体と心の健康のために活用できればと考えています。



中学生の自転車通学の安全を

ルートの変更を含め様々な角度から研究します

Q 小中学校再編計画では、令和12年には多くの中学生が自転車で見える関係づくりの場として慰労会を開催してきました。

Q 消防団へ物品を供与することの問題点について、町の見解を。

A 防災地域支援課長 埼玉市民オンブズマン・ネットワークのアンケート調査に対し、違法性の疑いのある協力金等は今後受け取らない趣旨として回答しました。

Q 消防団への支援の継続を

Q 消防後援会はどのような活動と支援をしてきたのか。

A 防災地域支援課長 活動に必要なレインコート、資機材等の購入や、長時間出勤した際の軽食支



通勤時間帯は様相が変わる114号線



環境保全



一体的システムの構築は

Q 大規模開発に当たったの基本コンセプトは「当町の自然を活かす」ということでしょうか。特に「さいたま小川町メガソーラー」の森林伐採、山の改変についてはどう考えるか。

A 環境農林課長 小川町第5次総合振興計画に「自然と文化を活かしたまちづくり」を掲げており、「さいたま小川町メガソーラー」建設予定地はレクリエーションゾーンに位置づけられ、「周辺の自然環境との調和に努める」としています。開発事業者に対し、「自然環境との調和」に努めるよう求めています。

Q 大規模開発を止めた事例を見ると、首長の決意によるところが大きいです。改めて町長の考えは。



自然環境との調和を

Q 町の進むべき方向性は

答弁 開発と自然環境との調和に努めます

Q 臨時教員の確保と給食センターの今後は。

A 学校教育課長 臨時教員の確保は難しい状況です。給食センターについては総合的に考えます。

Q 超高齢社会の中で、医療や介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしができるよう、一体的に提供されるケアシステムの構築と環境整備が喫緊の課題だが。

A 長生き支援課長 比企地区9市町村の医療介護関係者で連携推進協議会を設置しています。地域連携シートや医療介護の情報共有ツールの作成、地域住民への講演会などの取組を通じて、多職種間の強化を図っています。

Q 介護・医療の両保険制度が持続するためには。

A 長生き支援課長 令和7年に団塊世代が75歳以上となり、介護給付総額が創設時の約3倍、保険給付費等も増加すると予想されます。令和4年より高齢者の心身の



介護医療連携は人々の尊厳を支援する

答弁 多職種間の連携と強化を図ります

多様な課題に対応し、きめ細やかな支援を実施するため、保健事業と介護予防の一体的実施に取り組んでいます。また必要に応じ、適正な医療の受診へ導く等、医療面の健康支援も可能となります。さらに効果的な介護予防の実施で健康寿命の延伸につなげることが重要と考えます。



小川町議会だよりは

文字にコダワル!

高齢者や視覚の弱い方にも読みやすいユニバーサルデザインフォントを使用します!

今まで我慢してきた分、これからはいろんな町に旅に行きまくりたいなあ! (J・Tさん 34歳)

マスクに関しては、外す外さないを強制せずに、それぞれ自分のタイミングで外していけたらいいなと思います。(N・Mさん 24歳)

TPOに応じて、柔軟に行動します。これからは、お互いに顔も見られて安心しますね。(A・Mさん 68歳)

方針が出されているので、それを基本とします。これからは、いろいろと楽しみです。(M・Bさん 50歳)